



「SAICMの国内実施状況と今後の国際的な
化学物質管理の動向に関するセミナー」

SAICMに向けた 化学産業界の取組

2009. 3. 23.

(社)日本化学工業協会

小倉 正敏

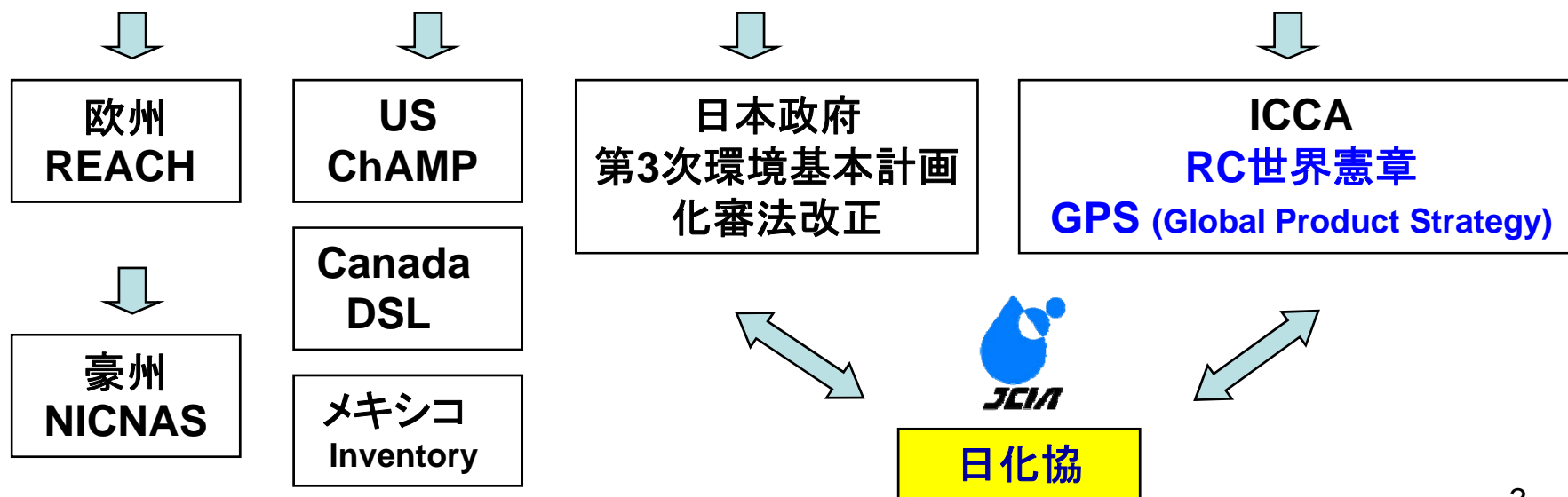
目次

1. 国際的な化学品総合管理の流れ
 - SAICMに向けて:ICCAとしての対応
2. 国内の取り組み
 - 新たな化学品管理の自主的取り組みに向けて
3. 産業界のRC活動紹介
 - Capacity Building
 - Long-range Research Initiative
 - OECDとの連携

1. すべてはSAICMの実現に向けて！

(SAICM: 国際的な化学物質管理に関する戦略的アプローチ)

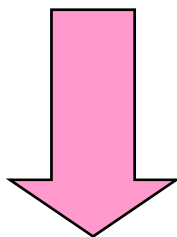
- 1992年 **国連環境開発会議(リオ宣言) アジェンダ 21**
第19章: 化学物質管理に関する6項目
(リスク評価、GHSなど)
- 2002年 **環境開発サミット(WSSD) ヨハネスブルグ実施計画**
 - ・化学品の悪影響を2020年までに最小化
 - ・2005年を目処にSAICMの策定に合意
- 2006年 **第1回国際化学物質管理会議(ICCM-1)**
SAICM採択 2020年目標



ハザード管理からリスク管理へ向けて

従来はハザード（有害性）管理

- ・ 化学物質の有害性・危険性一律管理：
表示義務、取り扱い制限、禁止等 過剰管理の可能性
- 毒劇法、労安法、GHS、RoHS/ELV、POPS等



曝露量と安全性情報を基にした、現実的かつ適正な管理。
条件、限定用途で使用可能に。
ただし曝露情報とアセスメントが必要

ICCA (国際化学工業協会協議会)

(International Council of Chemical Associations)



<http://www.icca-chem.org/>

- 北米 米国、カナダ、メキシコ、
- 南米 ブラジル、アルゼンチン、ウルガイ、チリ

- 欧州 CEFIC (28ヶ国)
- オーストララシア オーストラリア、ニュージーランド
- アジア 日本、韓国 (Observer : シンガポール)

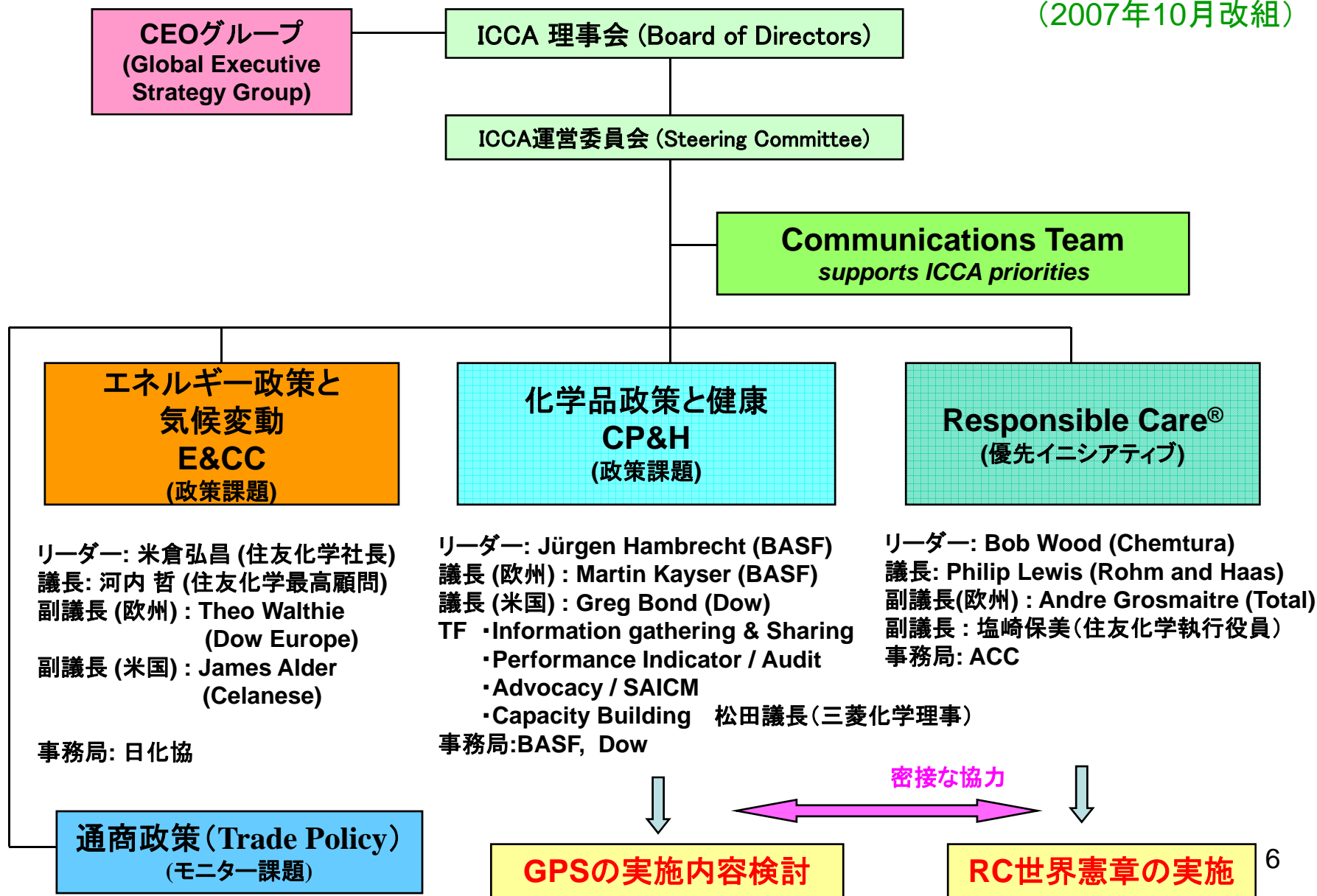
- 計 39ヶ国





ICCAの新組織と活動

2008年10月現在
(2007年10月改組)



ICCAの対応



- 1990年 レスポンシブル・ケア (RC) 活動の開始
- SAICMへのコミットと自主活動の強化
 - RC世界憲章 (2005年)
 - GPS (Global Product Strategy) (2005年)
- 世界に向けて
 - 2006年 第1回 国際化学物質管理会議 (ICCM-1) ドバイ
 - ICCAはRC世界憲章とGPSの実施を宣言
 - 2009年 第2回 国際化学物質管理会議 (ICCM-2) ジュネーブ
 - 取組の成果と進捗状況を報告予定。

「Responsible Care 世界憲章」

(<http://www.icca-chem.org/section04.html>)

＜9つの重要な要素＞

1. 世界レスポンシブル・ケア(RC)基本原則の採用
2. 各国でRCプログラムの基本要件の実践
3. 「持続可能な発展」の推進への公約
4. 継続的な成果の改善と公表
5. 世界規模で化学製品管理(Product Stewardship)の強化
6. 化学産業のValue ChainにおけるRCの普及と促進
7. 各国及び世界のRCのガバナンスプロセスの積極支援
8. 化学産業の活動と製品に対する関係者の期待に取り組む
9. RCを効果的に実施するための適切な資源の提供



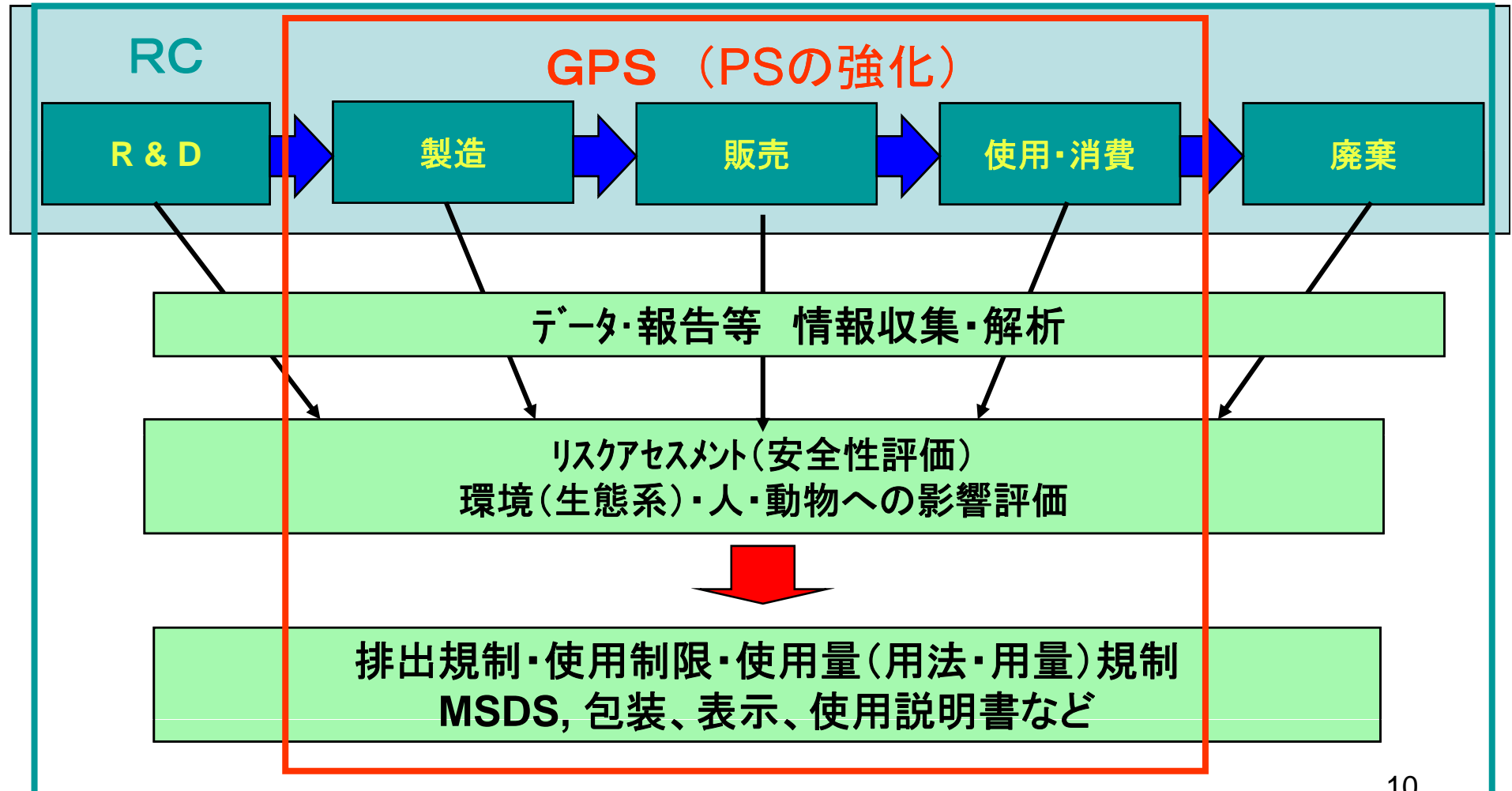
「Global Product Strategy」

(<http://www.icca-chem.org/section02d.html>)

1. プロダクトシュワードシップ (PS) プログラムの国際的ガイドライン作成
2. PSのための管理システムアプローチの開発とPSの実行
3. リスク特性評価およびリスク管理の実行 2018年目標
4. 下流ユーザー業界とリスク評価・管理に関する共同計画を策定、実行
5. 国際政府間組織 (UNEP, WHO, OECDなど) との連携構築
6. 公共へのPS情報提供のためのプロセス開発
7. 科学的調査の実施、LRIの推進
8. GPSの各ステップと成果を内外に周知するプロセスの開発
9. 各国政府や政府間組織の化学物質管理施策を適正化するため、Global Advocacyの基本原則を開発

プロダクトステewardシップとは？ (Product Stewardship)

“ゆりかごから墓場”までのすべての管理 レスポンシブル・ケアのひとつ



ICCA

ICCM-2 へのキー・メッセージ

- 規制と自主活動のベスト・バランス
- 世界的な規模での情報交換の強化
 - 生産者 / サプライチェーン / 政府 / 公衆
- 発展途上国やSME(中小企業)へのCapacity Building(能力向上)
- 製品の安全性評価の推進
 - 先進国・発展途上国・新興国の間の差を少なくする



GPSの枠組み(案)

- 有害性と暴露を考慮したベース・セット情報
- 評価対象物質の優先順位付け
- IT-Tool による情報共有
- 段階的なリスク評価
- PS情報の発信



“Base Set of Information” ヒト健康影響 データ要件

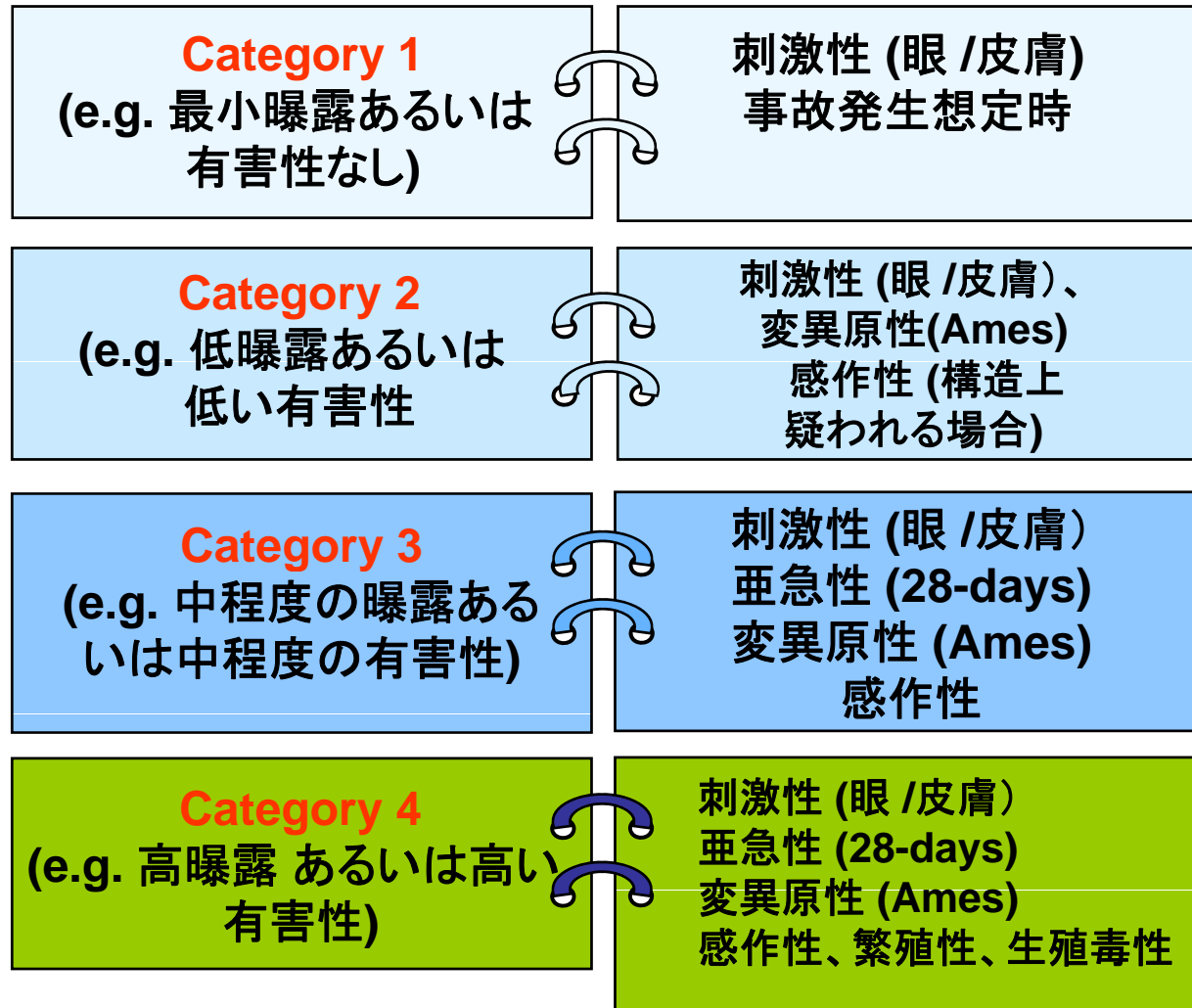
有害性の程度と曝露量により4段階のカテゴリを設定し
それぞれにBase Set試験項目を設定

標準要求項目

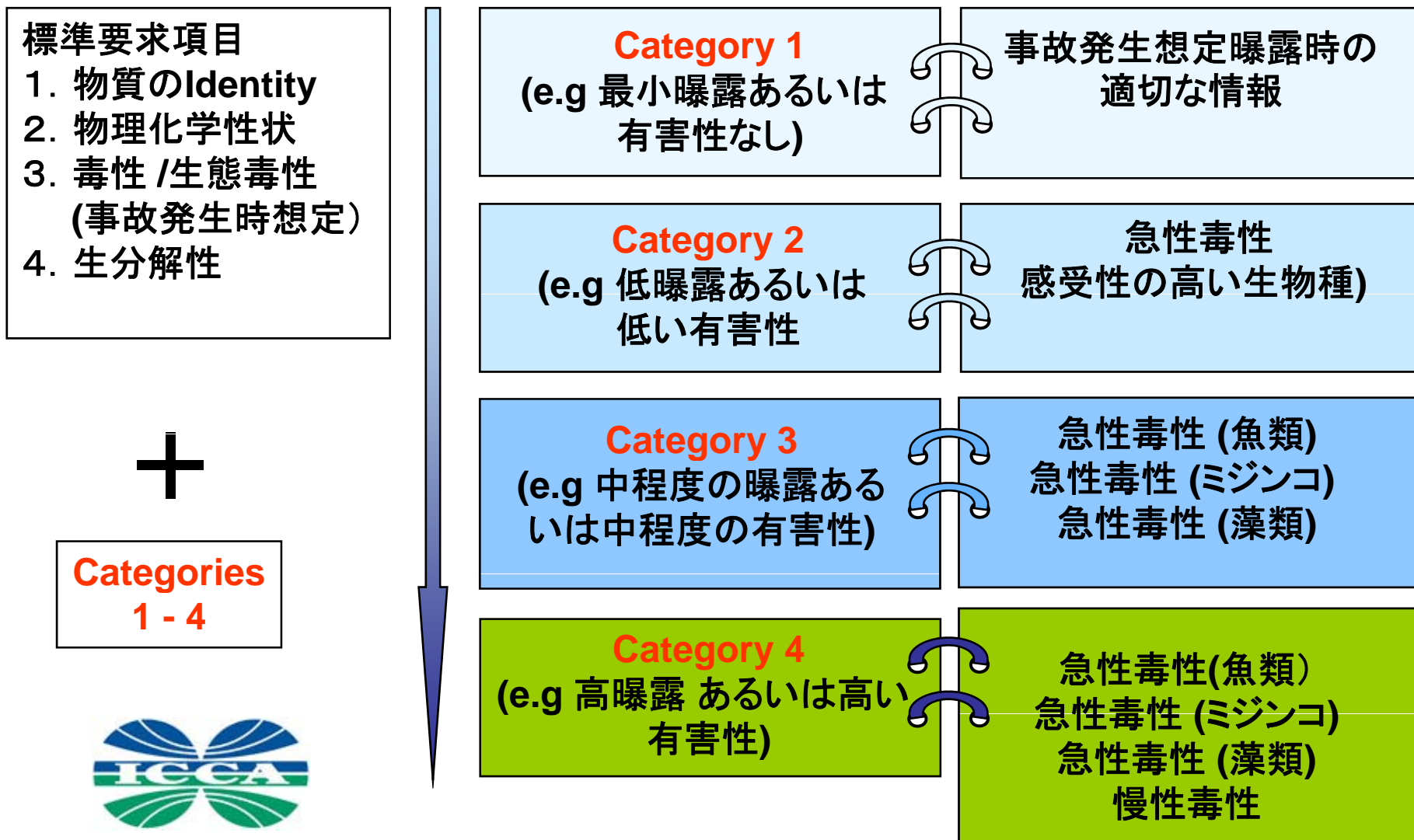
1. 物質のIdentity
2. 物理化学性状
3. 毒性 /生態毒性
(事故発生時想定)
4. 生分解性



Categories
1 - 4



“Base Set of Information” 環境毒性 データ要件

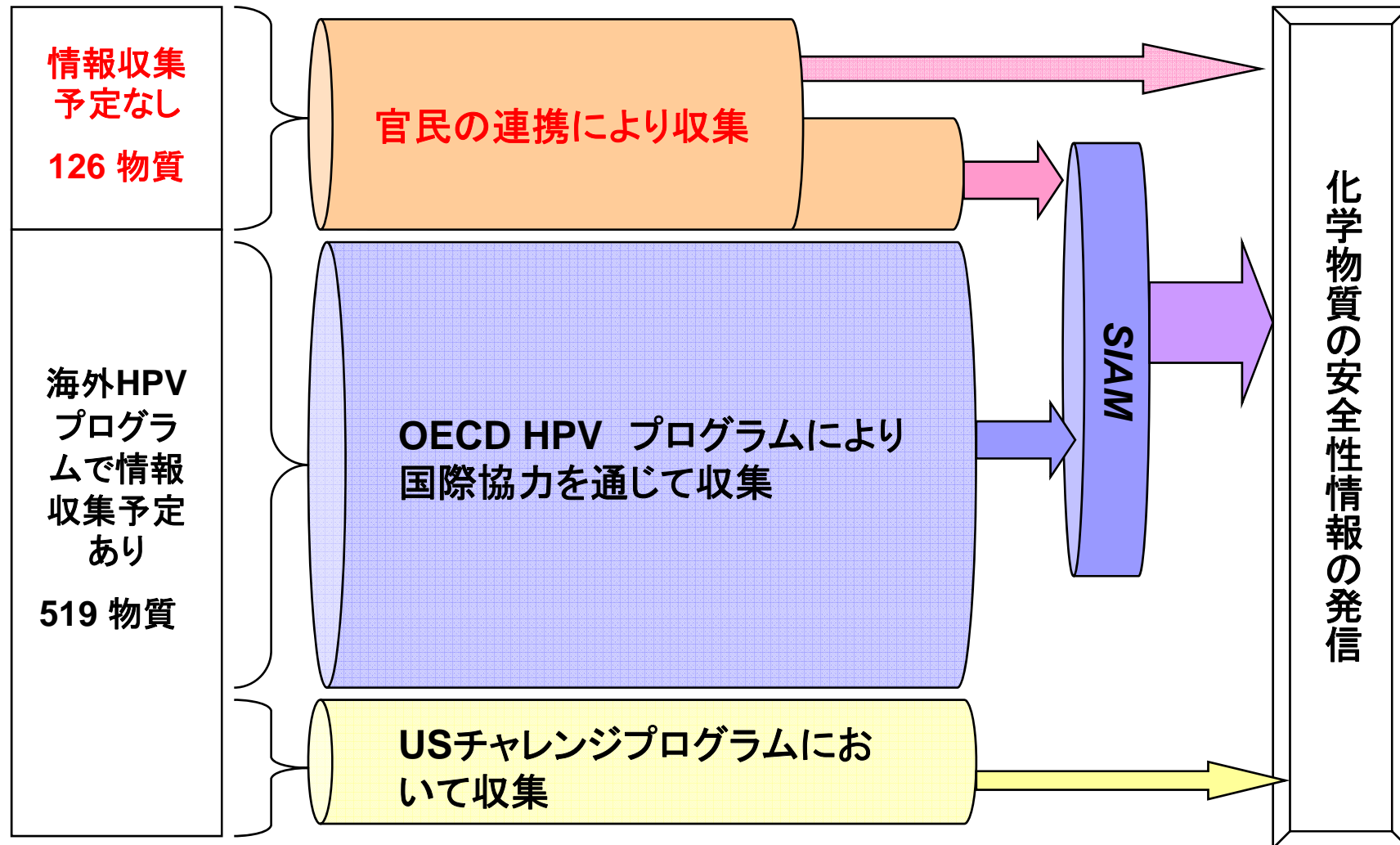


2. 国内の取組

既存化学物質点検 日化協の対応方針

- 2005年 **Japanチャレンジ・プログラム開始**
 - 「既存化学物質の有害性情報をとっていくことは重要であり、産業界は、従来国際的な協調の下で、HPV(高生産量化学物質)の有害性評価を促進してきている、今後とも安全性情報の収集に前向きに取り組む。」
- 2008年 **今後の取組** (6月 中間評価会議)
 - 「化審法見直し議論を踏まえながら、業界として前向きに検討するが、**リスクの観点**を入れた**優先順位付**が重要」

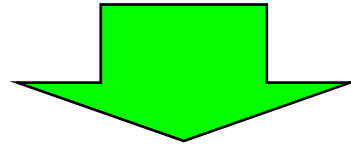
高生産量既存化学物質 安全性情報収集・発信プログラム



Japanチャレンジ・プログラムから 新しい取組の検討へ



• 目的



- 化学業界が、WSSDの2020ゴールを目指して、適切な化学物質管理を行う事によって、政府・NGO・一般市民から善き企業市民として受け入れられること。

• SAICMへの貢献

• 各企業のCSR、RCの一環として、PSの強化に有効活用

• 新しい取組の検討開始

- Product Stewardship (PS)の充実を目指し、リスク・ベースでの具体的プログラムを示し、会員企業の参加を求める。
- より現実的かつ効率化されたプログラムを指向。
- 経済的にも負担を軽減。

3. ICCA Responsible Care®

(<http://www.icca-chem.org/section02a.html>)

- 1985年 カナダで開始
- ICCA RC Leadership Group
 - 53の国と地域の協会
- 1995年 JRCC（日本リスポンシブル・ケア協議会）設立
 - 現在 100 企業が加盟
- 2006年 ICCM-1においてアナン事務総長（当時）から代表的な自主活動として表彰を受ける。



“inspiring model of self-regulation that other industries should consider following.”

ICCA PS ワークショップ



- GPS Awareness WS (2008実施 / CEFIC)
 - 東欧諸国(クロアチア、トルコ、ブルガリア、スロバキア)
 - Chemical Safety・RC (2008実施 / ABUIQM)
 - コロンビア
 - Product Stewardship Training WS (2009年予定)
 - **アジア地区は日化協/JRCCが主体となって推進**
 - タイ(3月)、インドネシア(4-6月)、シンガポール (4-6月)
 - アルゼンチン (9月)
 - スロバキア(4月)、ブルガリア(4月)、ロシア(5月)
 - 日本/東京(10月): APRO*会合(議長国: 日本)
- * Asia Pacific Responsible Care Organization





タイ PS ワークショップ

“Let's start to implement GPS and PS”

■ 3月26-27日 バンコック

■ 内容

- ICCAと「化学品政策と健康グループ」について / BASF
- GPSとは？ / サイアム・セメント
- GPSの現状と今後 / 日化協
- PSとは？ / 三菱化学
- PS概要とPSの実施 / Dow Chem.
- リスク評価とリスク管理-1:概要 / 住友化学
- リスク評価とリスク管理-2:実施 / Dow Chem.
- リスク評価とリスク管理-3:具体例 / 三井化学

Long-range Research Initiative

(<http://www.icca-chem.org/section02c.html>)

- ICCA-LRI:
2000年～
3協会による年間20-25億円
の基礎研究基金
 - 日化協:
年間 2億円
- レスポンシブル・ケアと
Global Product Strategy
での重要項目

LRI serves global
goals with regional
approaches





LRI Globalな連携の強化

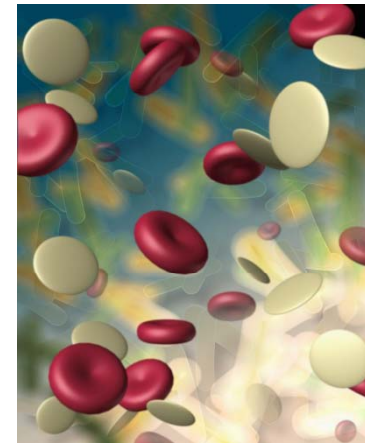
■ Globalな共通課題

□ 「暴露とリスク」の関係の追求

- Bio-monitoringに代表される「新しいdataの解釈の方策」
- 「新しいリスク評価手法の開発」

■ 日化協 LRI 主要課題

- 内分泌かく乱作用
- 神経毒性
- 発がん
- 免疫毒性(過敏症)
- リスク評価の精緻化



OECD EHS活動への協力

(Environment, Health and Safety)



- リスク削減プログラム
 - Per-Fluoro Compounds排出量調査 (2009年9月)
- 新規化学物質
 - 登録Templateの共通化、低懸念物質の登録要件削減
- 既存化学物質
 - HPVプログラム
- QSAR (構造活性相関)
- IT Tool
- Test Guideline
 - 国際調和による効率化
- MAD (Mutual Acceptance of Data)
 - GLP (Good Laboratory Practice)
- GHS (Global Harmonization of Classification and Labeling)
- Nanomaterial
 - ナノ粒子の有害性評価プログラム
- 化学物質のデータ開示とデータ保護



まとめ



化学産業界のめざすべき
SAICMへの貢献とは？

Product Stewardshipの充実

